



教育再生

学校教育を地域が支援する動きが出てきた。今夏、島根県隠岐郡海士町の教育委員会に招かれ、二日間の「出前塾」を行ってきた。当塾で展開しているインターネットで京大生を「派遣」する個別教育が着目されてのことだ。教育の再生にIT技術の活用という切り口は、「なるほど」と思わせるが、教育現場とはそう簡単なものではない。どんなに教員が優秀でも、子供たちに学ぶ意欲がなければお手上げである。



知山 篤  
志学塾(八戸市)塾長

### 「学びの意欲」を持たせて

だから、今回の使命は京大生の派遣よりも「夢に向かっておのずと努力を積み」学習方法を子供たちだけに伝えることであつた。

一八七二(明治五)年の学制発布以来、学校教育では寺子屋での個別教育に代わり、学年別の一斉教育が行われ、今日の授業スタイルがつけられてきた。

そして今、高倍率の採用試験を乗り越えた優秀な教員が配属される学校教育で、一クラス数人の離島の小学校でも、いわゆる「落ちこぼれ」が出てしまう現象がある。私は集団に二斉授業をするという、今の教育システムを見直す時期にきていると考えている。

今回の出前塾では、一斉個別方式という全く新しい学習指導を行った。私塾が地域で行っている教育システムが、学ぶ意欲を簡単に引き出した現象に、多くの教育関係者は驚いたようだった。

文部科学省は「学校支援地域本部」を本格的にスタートさせた。地域が学校を支援する連携の旗れの中で、「学びの意欲」を持たせる本気の教育を実現してほしい。これからの学校教育は、地域の教育力が鍵を握るだろう。

文部科学省は「学校支援地域本部」を本格的にスタートさせた。地域が学校を支援する連携の旗れの中で、「学びの意欲」を持たせる本気の教育を実現してほしい。これからの学校教育は、地域の教育力が鍵を握るだろう。